アフリカの巨匠ウスマン・センベーヌ監督が描く、愛と尊厳の人間賛歌

第57回カンヌ国際映画祭
ある視点部門 グランプリ受賞

2004年 マケラッシュ国際映画祭 ゴールデン・スター賞ノミネート、特別審査員賞受賞
2005年 ロサンゼルス パン・アフリカン映画祭 審査員賞受賞
2005年 全米批評家協会賞 最優秀外国語映画賞受賞

西アフリカの小さな村
日々は穏やかに過ぎてゆく
しかし、そこには大きな悲しみが隠されていた
ある日、女たちは立ち上がる
娘たちのために、未来のために

「エミタイ」「チェド」**ウスマン・センベーヌ監督作品**
監督・脚本・製作:ウスマン・センベーヌ／撮影:ドミニク・ジャンティ／美術・衣裳:ジョゼフ・クボプリ／音楽:ボンカナ・マイガ○出演:ファトゥマタ・クリバリ／マイムナ・エレーヌ・ジャラ／サリマタ・トラオレ／アミナタ・ダオ○原題:Moolaadé／2004／フランス・セネガル合作
124分／ヨーロピアンビスタ／Dolby SR／カラー○協力:学校法人ヤマザキ学園○配給・宣伝:アルシネテラン

母たちの村
Moolaadé

Director of photography: Dominique GENTIL – Sound: Denis GUILHEM, Jean-Guy VERAN – Editing: Abdellatif RAISS – Art director: Joseph KPOBLY Music: Boncana MAIGA – a co-production by Filmi Doomireew (Sénégal), Ciné-Sud Promotion (France), Direction of National Cinématography (Burkina Faso), Cinema Center of Morocco (CCM), CinéMétéFilms (Tunisie), Les Films de la Terre Africaine (Cameroun) – with the contribution of European Commission (FED), French Ministers of Foreign Affairs and Culture and Communication (CNC)- Fonds Sud Cinema – with the participation of Agencies of United Nations System in Senegal (UNIFEM, FNUAP, PNUD, UNICEF, OMS), Stanley Thomas Johnson Foundation (Swiss), Church Development Service – ABP-EZEF (Germany), Moroccan Agency of International Cooperation.

この美しい村では、
はるか昔から人々の営みは
変わることなく繰り返されてきた。
しかしある出来事を機に、
母たちは勇気をもって
思いを語り始める——。

「アフリカ映画の父」ウスマン・センベーヌ監督 感動の最新作

83歳になった今もなお、アフリカへの想いを込めて映画製作を続ける巨匠ウスマン・センベーヌ。「アフリカ映画の父」と呼ばれるセンベーヌ監督が、女性たちの溢れんばかりの力強さと優しさを色鮮やかに描き出す本作。ある小さな村で起こる出来事を通じて、アフリカ社会が抱える問題を浮き彫りにすると共に、「尊重しあい、勇気を持って生きること」の大切さを私たちに教えてくれる、愛と尊厳の人間賛歌である。

カンヌ国際映画祭をはじめ世界が賞賛

アフリカの人々にメッセージを伝えたい—。心からそう願うセンベーヌ監督が辿りついた答えは、映画だった。文字に頼る事なく、映像と音楽、そして物語を観客に伝えられる映画の力強さを信じ、日本でも公開された『エミタイ』(71)、『チェド』(76)など、数多くの傑作を発表し続け世界から注目されている。

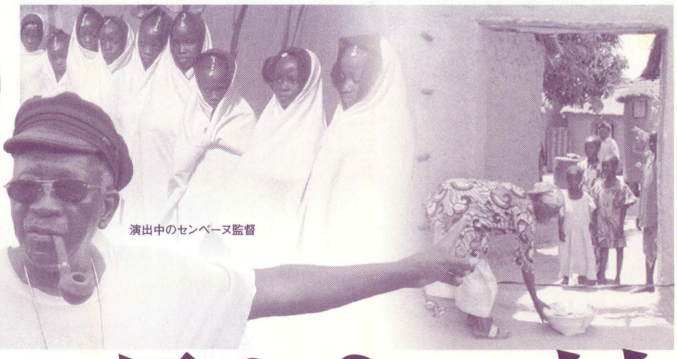
監督の最新作である本作の制作は、モロッコ、マリ、ブルキナファソなどの国々とフランスから集まったクルーで進められた。また、監督の思いに賛同した一般の人たちもキャストとして参加し、「アフリカの声」として世界各国で賞賛を博した。第57回カンヌ国際映画祭ある視点部門・グランプリ受賞、2005年全米批評家協会賞・最優秀外国語映画賞受賞を筆頭に、数々の賞に輝いている。

●物語

西アフリカの小さな村で、コレは第一ママ、第三ママや子供達に囲まれいつもと変わらぬ穏やかな朝を迎えていた。この村では古くから伝わるお清めの儀式として、女の子は割礼を受けることが決まりとなっている。ある日、4人の少女が割礼を嫌がり、"モーラーデ"(保護)を求めてコレのもとへと逃げ込んでくる。そして、コレは少女たちを保護する決意をする。伝統に逆らう事など問題外のこの村での前代未聞の出来事に、村の男たちは困惑し大混乱となる中、ついに母たちは娘たちのために、未来のために、この風習を廃止しようと立ち上がる——。

モーラーデとは

"モーラーデ"(Moolaadé)という言葉は、フルベ語で"保護"すなわち、ある人物、家族や王国に保護を求めること。人は何かに脅かされたとき、いつも自分を守ってくれそうな人物に、そして自分よりずっと強い人にモーラーデを頼む。
伝統を頑なに守ろうとする者と新たな未来を切り開こうとする者の衝突の鍵となるのがこの「モーラーデ」。新たな未来を切り開く重要さだけでなく、良き伝統を守る大切さも監督は伝えてくれる。



演出中のセンベーヌ監督

力強いメッセージとユーモア。そして驚くべき映像美。
他の映画の記憶が色あせても、「母たちの村」は私の記憶に残り続けるだろう。
ロジャー・エバート

見逃してはならない作品!世界を変える可能性を持った、
ヒューマニズム映画の頂点といえる傑作だ。
ニューヨークタイムズ

飾らないシンプルさと力強い巧みさが融合している。
ただポジティブな映画ではない、ポジティブに気分の良くなる映画だ。
ヴィレッジ・ボイス

今年一番 意気揚々として力強い作品。
シアトル・ポスト・インテリジェンス

良質で、勇気ある作品!
ガーディアン

母たちの村
Moolaadé

カンヌ 第57回カンヌ国際映画祭
ある視点部門 グランプリ受賞

監督・脚本・製作／ウスマン・センベーヌ「エミタイ」「チェド」
出演／ファトゥマタ・クリバリ
原題:Moolaadé／2004年／フランス・セネガル合作
35mm／カラー／ヨーロピアン・ビスタ／ドルビーSR／124分

配給・宣伝:アルシネテラン alcine terran
http://www.alcine-terran.com

協力：学校法人 ヤマザキ学園　ヤマザキ動物看護短期大学　ヤマザキ動物専門学校

ポスターデザイン=小笠原正勝、秋山京子

6月17日(土)より ロードショー!

岩波ホール

03-3262-5252 http://www.iwanami-hall.com/

●地下鉄(都営三田線・新宿線／半蔵門線)神保町駅・A6出口スグ
JR(中央線)水道橋またはお茶の水駅・下車徒歩12分●神保町交差点角

特別ご鑑賞券1,500円(税込)(当日1,800円の処)
当日料金:一般 1,800円／シニア・学生 1,500円
●ペア前売券(お二人様・岩波ホール窓口のみ) 2,900円
*岩波ホールチケットガイド[ビル1F]
都内プレイガイドなどで好評発売中

上映時間[入替制／自由席定員制]				
	月～金	11:30	2:30	6:30
	土・日・祝	11:30	2:30	5:30

アフリカ大陸全土にわたる25カ国84名のアーティストによる140点の最新アート「アフリカ・リミックス:多様化するアフリカの現代美術」森美術館にて 2006/5/27(土)～8/31(木)開催
www.mori.art.museum